

学校評価アンケート 後期集計結果のまとめと今後に向けて

- 実施期間：1月21日（水）～2月3日（火）
- 実施方法：Google フォームを用いたタブレット PC、スマートフォン等による回答
- 回答者数：在籍生徒 97名中、33名（全体の約 34%）が回答
- 回答方法：回答者は、①「そう思う」②「どちらかといえばそう思う」③「どちらかといえばそう思わない」④「そう思わない」⑤「判断できない どちらともいえない」⑥「授業や活動にあまり参加していないので、回答できない」から一つを選択。
- 評価基準：回答①、②を合計した肯定的な評価が、全体の8割以上であれば「A」、5割以上であれば「B」、5割未満であれば「C」とする。
(集計表の右下に、ABCで記載。)

1. はじめに

回答総数は33名です。在籍は97名で、回答率は34.0%です。これまでの回答率は令和4年度前期が71.7%、後期が48.3%、令和5年度前期が57.4%、令和5年度後期が52.8%、令和6年度前期が54.8%、後期が48.6%、令和7年度前期が38.4%でした。これまで同様、前期に比べて出席率が下がっているため、回答率も減少しています。

昨年度のアンケートから、選択肢の中に⑤「判断できない どちらともいえない」⑥「授業や活動にあまり参加していないので、回答できない」を設定しました。理由は、以前の選択肢にあった「わからない」を選んだ生徒が、質問の内容が判断できないのか、参加していないから分からないのかがはっきりしなかったからです。質問項目によりませんが、⑤「判断できない どちらともいえない」と回答した生徒が最多で6名（18.2%）、⑥「授業や活動にあまり参加していないので、回答できない」と回答した生徒が最多で2名（6.1%）

となりました。⑥の回答者が少ないことから、今回のアンケートに回答した生徒は出席が多いと考えられます。

2. 学校運営、教育活動全体に対する満足度

今回のアンケート結果では、全20項目中、14項目で①「そう思う」と②「どちらかといえばそう思う」を合計した肯定的評価がAとなる80%を超えています。残りの6項目が60%以上です。肯定的評価の高い項目が多く、本校の学校運営や教育活動に対して、一定の理解と高い評価をいただいたと考えています。また、17項目の質問において、前期よりも肯定的評価の割合が高まり、⑤「判断できない どちらともいえない」や⑥「授業や活動にあまり参加していないので、回答できない」への回答数が減っています。学校生活を長く過ごす中で、授業や様々な活動を多く体験し、学級やコースの仲間と関わることを通して、学校運営、教育活動全体に対する満足度が高まっているのではないかと考えられます。

質問1「私は安心して学校生活を送ることができている。」、質問2「学校で学ぶことは楽しい。」に対する肯定的評価は全項目中最も評価が高い97.0%です。多くの生徒が、現在の学校生活に一定の満足感を得ながら、安心して生活し、学校での学びを楽しんでいることがうかがえます。

上記の質問の回答は例年高い評価となっていますが、今後も引き続き、生徒がより安心した学校生活を送るために、どのようなことが必要なかを考えて、実践していきます。

3. 教育活動、教育環境の一層の充実を目指して

(1) 学校での「学び」に関すること

学校での「学び」に関する質問3～12では、肯定的評価の割合が80%を超えている評価Aが8項目あり、肯定的評価の割合が50%を超えている評価Bが2項目あります。

質問3「学校での授業はわかりやすい。」に対する肯定的評価の割合が93.9%と前期に比べて、高くなってきています。各教科において生徒の実態を適切に捉え、分かりやすい授業を実践できていると考えます。

質問5「校外学習や文化学習発表会、スポーツ交流会などの学校行事は楽しく参加できた。」は、前期に比べてさらに肯定的評価が高まりました。今後も、生徒が楽しさや、やりがいを感じられるようなよりよい行事となるように工夫・実践していきます。

質問6「学校でくばられるプリント類は、みやすくわかりやすい。」は、全項目の中で最も肯定的評価の高い97.0%でした。今後も学校で配られるプリントや各教科で使用する学習プリントなどを見やすくわかりやすいものにするように教職員全体で意識して実践していきます。

質問8「わたしは、授業でほかの生徒さんとはなしあったり、いっしょに活動したりすることができた。」は、全項目中最も肯定的評価が低い66.7%となりました。質問9「授業で、ほかの生徒さんとはなしあったり、一緒に活動したりすることは、いい活動だと思う。」は、肯定的評価が高いため、活動自体にはよさを感じていると思われます。各教科や学級活動などで、無理のない範囲で生徒同士が話し合ったり、協力したりする活動を取り入れていき、少しずつ生徒さんにとって、人との関わりに自信をもてるようにしていきたいと思います。

(2) 教育相談、支援体制の充実

教育相談や支援体制に関する質問 13~20 では、評価Aの項目が4つ、評価Bの項目が4つあります。

質問 13「なやみごとなどの相談を先生にしやすい。」や質問 16「こまったとき、先生やカウンセラーさんに相談しやすい。」は、評価がBではあるものの、前期に比べると肯定的評価が上がっています。カウンセラーへの相談のハードルを下げるために、「イドバタタイム」という名前の会をスクールカウンセラー主催で行っています。毎月1回16時45分からの30分間、生徒や教職員が一緒になって話をする会で、他の人の話を聞くだけでも大丈夫、途中入室・退室も自由な気軽な時間で、毎回平均すると5人程度の生徒が参加しています。今後も、このような取組を続けたり、教職員が進んで生徒に声をかけたりするなどして、話しやすい雰囲気づくりを行い、信頼関係を築いていきます。

質問 17「わたしは、まわりの人に思いやりの心をもって接しようとしている。」は、肯定的評価が71.1%から78.8%へと上がっています。また、質問 18「おおくの生徒や教職員は、親切である。」は、全項目中最も肯定的評価が高い97.0%でした。学校生活の中で、生徒や教職員など様々な人と関わる時に、人の親切を感じながら過ごしている姿の表れだと思います。そのような人とのよい関わりの経験を通して、質問 17のように、生徒自身もまわりの人に対して、思いやりの心をもって接しようとする姿が増えているのではないかと考えます。今後も星友館中学校のよさとして、思いやりや親切という姿を大切にしていきたいと思っています。

最後に、質問 20「教室やトイレなど、学校の施設は、きれいで使いやすい。」ですが、肯定的評価が93.9%と前期よりもさらに高まりました。日頃の教職員の清掃活動の成果であり、また生徒自身も自分たちが使う学校を大切にしようという考えだからだと思います。今後も継続できるようにしたいものです。